



高岡市【富山県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：172,542人 ■ 面積：210km²
■ 担当課：高岡市教育委員会生涯学習・文化財課（平成30年3月現在）



文化財の保存・活用を通して、歴史や風土を学び、ものづくり文化をさらに洗練していくことを目指す。また、市民一人ひとりが高岡市の「人・ものづくり・文化」を担っているという意識を高めていくことを通して、市民が郷土に対する誇りを持ち、ものづくりの結晶が輝くまちを実現していくことを将来像とする。

5 歴史文化を表す つのキーワード

加賀前田家ゆかりの町民文化、金工・漆工の工芸技術、
ユネスコ無形文化財、国宝寺院、非戦災都市

課題

- ・ 空き家の増加
- ・ 銅器、漆器等工芸技術の後継者不足

保存活用方針

- ・ 文化財と周辺環境の一体的な保全
- ・ 市民活動支援の充実と連携体制の整備

保存活用のための取り組み

街道・街路や水辺空間をつなぐ 歴史的界隈の回復

かつて高岡の城下町の動脈として、町の賑わいや生活の中心的役割を担っていた街道・街路や河川・用水、更にはその周辺環境を整備することによって、歴史的界隈の一体性を感じられる空間の回復を図る。



地域に根差した伝統産業とその 技術・景観の継承

西山丘陵の日当たりの悪い山裾等においてスゲの栽培が行われ、そのスゲを利用した菅笠づくりが地域に根差した伝統産業として継承されており、これらの技術と景観を一体的に保存・継承していく。



伏木外港の開発と歴史的街区の 保存・活用

特定重要港湾伏木・富山港の港湾整備にあわせみなと町伏木に良好に残る歴史的街区の保存・継承と伏木曳山祭など祭礼・年中行事の一体的な活用を図る。

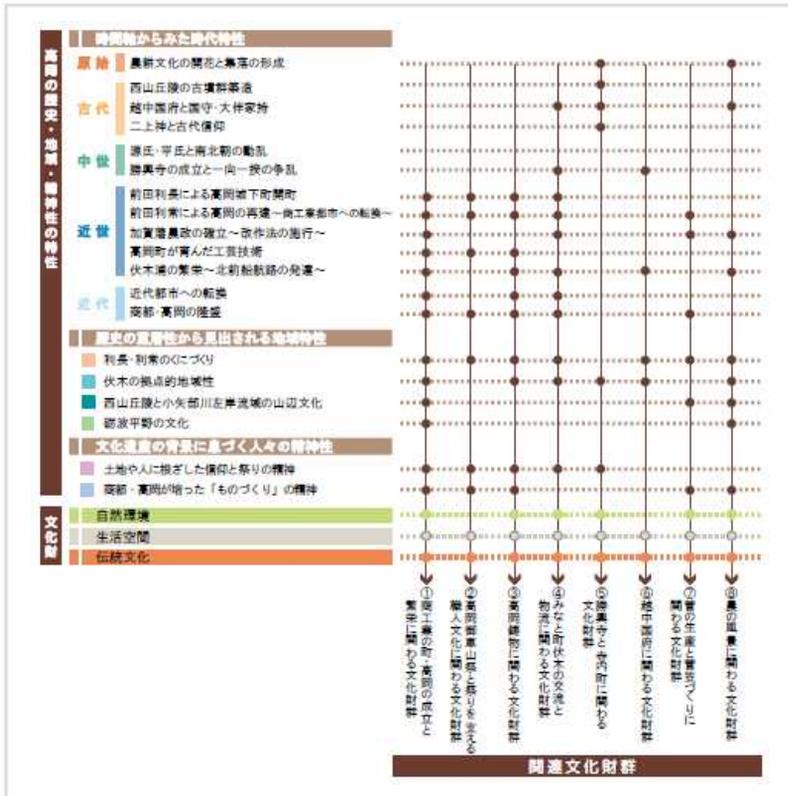


主要な文化財の周辺環境・眺望 の保全

文化財の周辺環境・眺望が、文化財の価値を構成する重要な要素であることを認識し、市街地の開発との調和を図りながら眺望景観規制等、一定のルールづくりなどの対策を講ずることにより、周辺環境の保全を図る。



関連文化財群



これまで個別に認識していた文化財をストーリーで結ばれた総体としてとらえることによって、高岡の歴史や風土、文化財をよりわかりやすく理解し、その魅力を多くの人々に伝えていくことを目指す、“高岡らしさ”の象徴として関連文化財群を設定する。

ストーリー

- ① 商工業の町・高岡の成立と繁栄
- ② 高岡御車山祭と祭を支える職人文化
- ③ 高岡鑄物の始まりと高岡銅器の隆盛
- ④ みなと町伏木の交流と物流
- ⑤ 勝興寺の繁栄と寺内町の形成
- ⑥ 大伴家持と越中国府
- ⑦ 菅の生産と菅笠づくり
- ⑧ アズマダチ民家にみる農の風景



策定後の成果（見込まれる効果）

① **歴史・文化のまちづくりの明確化**
従来の個々の文化財の保存という「点」の取り組みから、総合計画の柱の一つとしての位置づけや歴史まちづくり計画の実践といった「面」としての取り組みにステップアップする基礎となった。



② **日本遺産など新たな価値の創出**
関連文化財群としての整理を行うことにより、そのストーリーが日本遺産の認定の基となったほか、文化財とその周辺環境の整備が、高岡御車山の御車山行事のユネスコ無形文化遺産登録といった新たな価値の創出につながった。



③ **市民活動の活性化**
伝建地区など従来から取り組まれている文化財の保存・活用の活動に加え、景観形成のための活動や観光ボランティアといった市民活動が徐々に盛り上がり、団体同士のネットワークの構築も進んできている。

